

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 5

ゆたか倶楽部を創業する前、当時勤務していた旅行会社で札幌支店の責任者をしていました。当時は主に船をチャーターして北海道発着の日本一周、神戸ポートピア博、八丈島、沖縄などのクルーズを企画募集しました。

例えば、1983年(昭和58年)に「さんふらわあ7」(7494トン・乗客定員764名)で北方四島をめぐる北海道一周クルーズは、同じ年にソ連のミグ戦闘機に撃墜された大韓航空機の事件もあり、しかも戦後初めての北方四島を通過する船ということで、心配して海上保安庁の職員も4名乗船し、注意事項などを乗船者にレクチャーをしてくれました。ウルップ海峡で、右舷側に潜水艦が浮き上がってきたのにはびっくりしました。紋別港では参加者は観光を楽しみ、市が提供してくれた昼食をいただきました。また「さんふらわあ7」を使って当時の国鉄とタイアップし、名寄本線の廃線を止めるため、駅にポスターを貼り「レイル&クルーズ」という事で、国鉄・船内のランチ・イベントをセットにしたディクルー

ズで列車の乗客数を上げる企画もしました。約六百名も参加していただきましたが、結果的に名寄本線は、1989年(平成元年)に廃線になりました。

また、地元誌北海タイムス社とは北海道・北海道開発庁の後援のもと、北海道内の土木・建築業従事者の福利厚生を目的としたグアム・サイパンクルーズを毎回満船で5年間共同実施しました。

これらの経験後、1984年(昭和59年)5月23日にゆたか倶楽部を創業、クルーズ事業を法人として本格化させました。

1992年(平成4年)には、客船初の「利尻・礼文クルーズ」を実施しました。チャーターした船は「サンシャインふじ」です。

「サンシャインふじ」は三千トン時代の船とは異なり大きさが約八千トン。船内にレストランもあり、それ相応の食事が提供されるようになっていました。



サンシャインふじ

利尻島の杓形(くつがた)港では、観光課長をはじめ島民の皆さんが温かく迎えてくださり、お客様全員をランチバーベキューに招待してくれました。会場は約76ヘクタールの広さを持つ森林公園です。アルコールと名物のウニ以外はすべて無料。町をあげての歓迎と景色の美しさに感動しました。島内観光や宿への交通として町営バスを無料で提供していただきました。その時の観光課長は現在の保野洋一町長です。昨年、久しぶりに利尻町でお会いすることができ、昔話に花が咲きました。弊社に続いて、各船会社の船も「利尻・礼文クルーズ」を始めるようになり、最初の3年は現地の様々な手配を弊社で担当していました。

その後、杓形(くつがた)港は整備が進み、2006年(平成18年)には大型クルーズ船に対応した耐震強化岸壁が一部完成し、暫定使用開始され、この年の6月に「ふじ丸」(2013年引退)をチャーターして入港させました。「新しい港が完成したら、必ず客船をチャーターし初入港する」と当時田島順逸町長と交わした約束も、無事に果たすことができ、町長は感激して船上にて「大漁節」を唄い踊ってくれました。

「サンシャインふじ」の船会社は大島運輸(現・マルエーフェリー)です。大島運輸とは昭和45年の大阪万博の時から

長い付き合いで、昔は三千トンの船に千名様程を乗せて沖縄、与論島、小笠原、八丈島、韓国などへのクルーズを実施しました。航海中は大部屋に雑魚寝です。ドラの合図で起床・床上げし、折りたたみのちゃぶ台を出して8人が向かい合わせで食事をいただくのです。チャーター、カレライスが定番メニューでした。旅行代金は、沖縄が7日間で2万9800円、小笠原が6日間で3万9800円程。当時の航空券代は羽田から往復で沖縄が5万円くらいでしたので、かなりリーズナブルな料金でした。そのため若い人や高齢者層には大変人気がありました。

他にも、私が日本船をチャーターし、客船が初めて寄港した島は、北海道の天売(てうり)島、新島、甌(こしき)島、沖之永良部島、徳之島などがあります。

日本のクルーズ略史(利尻・礼文クルーズ始まる)

1979年	「さんふらわあ7」再就航
1983年	「サンシャインふじ」就航
1984年	ゆたか倶楽部、創業
1990年	「クリスタル・ハーモニー」(現 飛鳥Ⅱ)就航
1991年	「にっぽん丸」(三代目)就航
1991年	「飛鳥」(現 アマデア)就航
1992年	「さんふらわあ7」引退
1992年	ゆたか倶楽部「旧にっぽん丸」(二代目)で日本一周チャータークルーズを実施
1996年	ゆたか倶楽部、「サンシャインふじ」をチャーターし、客船初の「利尻・礼文チャータークルーズ」を実施
1996年	「サンシャインふじ」引退